

# 概念工学の実装とその倫理

オーガナイザ：田中 凌 (Ryo Tanaka)

JSPS 特別研究員 PD・東京大学大学院総合文化研究科

概念工学とは、(1)既存の概念あるいは言語表現が抱える何らかの問題を指摘し、(2)その問題を克服するより良い代替概念を提示し、(3)それを社会に流通させ実装しようとする試みである (Cappelen and Plunkett 2020)。例えば、概念工学の実践者の一人であるハスランガーは、ジェンダーや人種に関わる社会問題に対処するにあたって、既存のジェンダー概念や人種概念には改善の余地があるものとし、自身の提案する代替概念が広く社会で使われるべきであると論じた (Haslanger 2000)。概念工学に関する研究は近年の言語哲学で一つの潮流をなしており、具体的に何らかの概念に対して概念工学を行う試みに加え、概念工学の基礎や方法論についての議論も蓄積されてきている。

本ワークショップの目的は、概念工学の実装とそれを巡る倫理的問題を検討することである。議論の一つの出発点となるのは、概念工学における「実装の困難」に関して近年注目されている問題である。例えば、ハスランガーのジェンダー概念や人種概念は、それらを提案する彼女の論文出版からそれなりの年月が経っているにも関わらず、広く社会一般で使用されるようになってはいない。また、概念工学の実装が困難であることには克服の難しい原理的要因があるとする、実装に関する悲観論を唱える論者も存在する (Cappelen 2018)。こうした議論状況を受けて、本ワークショップでは、具体的な実装の手法とその倫理的懸念にかかわる次の問題について検討する。

1. 実装の困難を克服する具体的な実装の戦略としてはどのようなものがありうるか。
2. 実装という点で過去に成功を収めた概念工学の実例にはどのようなものが存在するか。
3. 一方で、実装に効率を求めることは、人の思考や言論を操作しその自律性を侵害するという倫理的問題を招くのではないか。
4. 概念工学を行いその実装を主導する人々は誰か、また誰であるべきか。

1. 概念工学の実装に関する悲観論者の代表格はカペレンであるが、彼の検討する概念工学の実装は、主に概念の適用条件や定義を変更することでその意味変更を行おうという、内包的アプローチである。これに対して、既存研究において光の当てられていない外延的アプローチを考えることが可能であり、その観点から新たに実装の問題を検討できる。外延的アプローチによれば、代替概念の実装は、既存概念が適用できるかが一見はっきりしない事例を提示し、人々に適用の妥当性を認めさせることで、概念の当てはまる対象を広げるといった手続きを取る。

2. 概念工学は比較的新しい研究分野であり、実際に過去に生じた概念変化の例とし

ては少数のものが使い回されているのが現状である（天文学における「惑星」、アメリカの司法における「marriage」や「rape」の定義変更など）。新しい具体例を収集しその記述を丁寧に行うことはそれ自体で意義があり、概念工学の基礎研究が参照できるデータを増やすという重要性も持つ。また、既存の研究において用いられている具体例のほとんどは英語圏での言説に由来するものであり、特に日本語をベースとした具体例を収集することは、日本における概念工学の受容と発展にとっても必要である。

3.概念の効率的な実装を追求するアプローチは、代替概念の良さの説明を各人に対して行い受け入れを促すという方法以外のものを模索する場合がある。例えば Nimitz 2021 は、一部の社会的に影響力・権威を持つ人間に代替概念を使用させ、その影響力や権威を利用して人々にその振る舞いを模倣させることが、実効性のある概念実装の方法だと主張する。しかし一方で、こうした方法は説得や当人による熟慮といった合理的プロセスをバイパスして人々の言論や意思決定を操作するもの、自律性を侵害する不当なものにも思われる。これに類似した懸念は近年ナッジに対する批判という文脈でも問題とされており、そうした議論の蓄積を参照することで、概念工学の倫理的懸念に対処するための見取り図を描くことができる。

4. 従来の概念工学を巡る議論において、概念工学を行う主体として考えられているのは主に、何らかの言説領域に関して制度的権威を持つ専門家・理論家である。こうした実情からは自然に導かれる実装のモデルは、専門家が概念変更を提唱し非専門家に働きかけることで代替概念を流通させる、というものである。ここで検討されるべきなのは、具体的にどのような概念についてどの集団に権威があるのか、そしてそれはどのように決定されるべきなのかという問いである。いわば「専門家に自身の使用する言葉・概念の意味を定めてもらう」という現象は従来の言語哲学でも「意味論的委任」として論じられてきたものであり、それがどのようになされるべきかに関する規範的研究も存在する (Ball 2020)。そうした議論の蓄積を概念工学の文脈に応用することで、概念工学の実践における専門家の役割を明らかにすることができる。

## 参考文献

Ball, D. 2020. Metasemantic ethics. *Ratio*, 33(4), 206–219.

Cappelen, H. 2018. *Fixing language: An essay on conceptual engineering*. Oxford University Press.

Cappelen, H., & Plunkett, D. 2020. Introduction In H. Cappelen & D. Plunkett, *Conceptual Engineering and Conceptual Ethics* (pp. 1–34). Oxford University Press.

Haslanger, S. 2000. Gender and race: (what) are they? (what) do we want them to be? *Noûs*, 34 (1): 31–55.

Nimitz, C. 2021. Engineering concepts by engineering social norms: Solving the implementation challenge. *Inquiry*, online first, 1–28.